



1 増える災害 確かな訓練

本校と水戸産業技術専門学院の避難訓練が、4月24日(水)に実施されました。

訓練は、11時10分、短大棟2階給湯室近くのバルコニーから発災したとの想定で、速やかな学生の避難が行われました。地震による災害も増えており、災害発生時における人命の安全確保のための確かな訓練が欠かせません。正に、訓練に勝る防災はありません。

初期消火訓練では、消火器の説明と取り扱い方の説明を受け、水消火器を使い3m先の的に噴射していました。訓練に参加した1年生の菱沼大清(多賀高卒)さんは「緊急時であり、大きな声で火災を知らせ、消火器を手にとって、しっかりと初期消火に当たりました」と話していました。



消火器の説明を受ける学生たち



校内に設置されている消火器



避難する学生たち



初期消火訓練をする学生たち

2 『記事トレ』 紹介

<記事> 読売新聞(2024年4月23日)
編集手帳「・・・子供読書の日」

本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

●木元心結さん(多賀高卒)

◇要約 児童書「ズッコケ三人組」の作者、那須正幹は、宿題のようにやらせる読書感想文の賛成派ではなかった。また、「不思議の国のアリス」の著者ルイス・キャロルも食事をするように読書をと語る。

◇感想 私は読書が好きで、よく本を読むが推理ものを読むことが多いので長い時間読んでしまう。「食事をするように」という言葉が面白いと思った。これからは意識して多くの本に触れていきたいと思う。

●松倉洋輝さん(緑岡高卒)

◇要約 読書は人間にとってまるで心の栄養のように大切だ。しかし感想文のために無理やり読ませるのではなく図書館などでより多くの本を手にとって見てもらうことが、読書を好きになってもらう第一歩である。

◇感想 小学生の時、休み時間になったらよく図書室に行くほど読書が好きだった。きっかけは漫画だったが、そこから絵本や小説が好きになったので、10冊の本が手軽に借りられる図書館が増えて欲しいと感じた。

●小川幸乃さん(鹿島高卒)

◇要約 本が苦手な子供でも10冊手に取れば1冊は読みたい本に出合える。私たちは、心の栄養を取るために適切なものを多すぎず少なすぎず、休みをはさみながら本を読むのが良い。

◇感想 私は本を読むのが好きなので、自分の興味のある本とそうでない本があることはとても共感できました。しかし、最近本を読めていないので、適切な量を定期的に読んでいきたいと思いました。

